

# 今後の子ども政策の考え方（グランドビジョン）で 目指す方向性

資料4 - 1

## 対応すべき課題

- ☑ 少子化の急激な進展
- ☑ 子ども・若者、子育て家庭を取り巻く環境の変化

## 解決方法とその効果

子ども・子育て応援都市の  
施策と地域の力を総動員

このまちで育ってよかった、と思える  
まちを実現

年少人口の減少にあわせて、単に支援や施設を縮小していく方策を採らずに、

妊娠期から低年齢期も含めた

**すべての子育て家庭を対象**にした

**子ども・子育て支援施策の充実**を目指す

## (1) 子どもの権利保障と 子どもを中心とした地域づくり

子どもや若者が、地域社会の中で、多様な活動に参加したり、自分の意見を表明できる環境をつくります。

主体的に活動する場や機会の充実を図り、子どもや若者が、地域の人々に温かく見守られながら、いきいきとのびやかに育ち、社会の一員として尊重され、人と人がつながりあうコミュニティをつくります。

## (2) 地域や人とのつながりの回復に向けた 日常的な見守りネットワークの強化

まちづくりセンターを単位とする地区の「四者連携」（あんしんすこやかセンター・社会福祉協議会・児童館）を通じて、日常的にあたたかく見守り支えるネットワークを緊密にし、子どもや若者を包摂した地域コミュニティを活性化させます。

子どもや若者に関する施設や機関、地域の子育て団体等の社会資源をつなぎ、子どもや若者、子育て家庭を支援します。

## (3) 日々の暮らしの身近なところで、 すべての子育て家庭が人や支援に つながるためのサポートの充実 （世田谷版ネウボラの深化）

妊娠期から孤立することなく、地域の人々や子育て支援につながりながら、安心して暮らせるよう、日々の暮らしの身近なところに、産前産後からの子育て支援を充実させます。

身近な距離（ベビーカーや子どもが歩いて15分）にある「おでかけひろば」が「まちのおうち機能（実家のようなもう一つの家）」を担えるよう、更なる支援や場の充実を図ります。

0歳から2歳は在宅で子育てしている家庭が多いという現状を踏まえ、低年齢期に焦点をあてた産後ケア事業を含む子育ての多機能拠点の整備を検討します。

## (4) 子ども・子育て支援の基盤整備 （教育・保育及び支援の質の向上と 機能転換・拡充）

これまでの幼児教育・児童福祉分野の施設を必要な再配置をおこない、施設・財源ともに、すべての家庭を対象とした妊娠期から低年齢期の子育て支援に重点的に振り向け、多世代交流を含めた地域や人とのつながりの回復に資する等、包括的に強化します。

子ども・子育て関連施策をわかりやすく、シームレスな仕組みに向上させます。

## (5) セーフティネットの強化

児童相談所と子ども家庭支援センターが役割分担をして共同して子ども支援にあたる「のりしる型」支援を継続し、地域の子ども・子育てネットワークの中で、児童虐待の兆候をとらえ、早期対応をはかります。

子どもの権利を尊重し、保護者支援も丁寧に行い、虐待予防と共に困難な養育環境にある親子への再統合支援に取り組むとともに、里親の拡充と支援を強化します。

児童養護施設等から自立する若者支援のための「フェアスタート事業」を拡充します。